

# お散歩、 電車コースの巻



大須賀 裕子

この秋、一歳児いちご組十三名の一番のお氣に

入りは、電車コースのお散歩です。思えば春の頃には、おぶいひもと乳母車が必要でしたが、秋には卒業して、みんな歩いていけるようになりました。一歳児クラスの成長は本当に著しく、秋にはクラスの半分以上の子ども達が満二歳をむかえました。赤ちゃんから子どもへと成長していく子

ども達の様子をご紹介します。

「電車、見に行こう！」と言うと、「オシッコデナイ」と頑張っていた子ども達もトイレに向います。お世話やきの女の子達は、帽子係です。帽子をかぶっていないお友達がいると、その子の帽子を持ってかぶるまでずーっとあとを追いかけています。保母も帽子を忘れてみると、さっと見つけ

て「帽子ナイト、散歩イケナイヨ」とやさしく教えてくれるので、保母も帽子を忘れません。

階段を元気に降りていきます。みんな歩いて降りられるようになりましたが、時々思い出したように、腹這いで後向きにズリズリと降りていく様子が何ともユーモラスです。いざ、靴箱へ。みんな自分の靴がわかるようになりました。さつさと自分の靴を出してきて一人で履いて戸口で待っている子もいれば、自分の靴を持って事務所へ見せにいき、園長先生に「いい靴だね」と言ってもらうのを待っている子、お兄ちゃんのいるクラスへ見せにいく子、みんなに「クック、クック」と見



せてまわる子……という具合に、たいへんにぎやかです。

電車コースは自動車も通る道なので、お友達と手をつないで歩きます。保育園の門のところで「お友達と手をつなぎましょう」と言うと、お世話焼きのA子ちゃんは真先にB男君と手をつなぎます。C子ちゃんも黙って大好きなD男君の手をしっかりとつなぎます。E男君は「Dチャン、Dチャン」と何度も名前を呼びながら、ようやく靴を履いていたD男君を見つけて手をつなぎ、「エへへ…」と顔を見合せて笑います。どちらかというと女の子の方が積極的でしょうか。まだ、歩行が不安定な、F子ちゃんやG男君は保母の手をしっかりと握ってきます。とは言っても一歳児クラスの子ども達のこと、まだまだ手をつなぐよりも一人で歩きたい年齢なので、車の通らない安全な所は、できるだけ一人で歩くようにしていま

す。

さあ出発です。お天氣の良い日のお散歩は本当に気持ちよく、♪歩こう歩こう…と自然に保母の口から歌がこぼれます。まずは、八百屋さんの前を通って、おじさんとおばさんに「おはようございます」「いってきまーす」とこあいさつします。すっかり顔見知りになったので、おじさんもおばさんも「おはよう、どこいくの」「元気だね」と必ず声をかけてくれます。子どもたちもそれぞれが「デンシャ」「デンデン」「レッドアロー」「デンシャ、ミニクノ」とうれしそうにこたえます。これもお散歩の楽しみの一つです。かどをまがった所で陽なたに丸まっている猫を見つけました。子ども達は大喜びで「ニャンニャン」と指を指して騒ぎます。H子ちゃんは「キヤー」と歓声を上げるほどです。保母も同じ目線に立ってと思い、しゃがみこむと子ども達も

チョココンとしゃがみこみます。そのうち、少しずつ猫に近づいて行く子ども達ですが、猫が立ち上がってこちらに歩きだしたとたん、「コワイヨー」と急いで戻って来てしまいました。ちよっぴり恐かったようです。

猫をじっくり見た後は、「ネコノウタ（犬のおまわりさん）ウタッター」とI男君からリクエストが出ました。保母が歌いだすと、♪（まいごのまいごの）コネコチャン…という具合に部分部分ですが子ども達も一緒に歌います。保母が時々、歌詞を替えたりするとJ子ちゃんが「チガウデショウ」と知らせるので「ごめん、ごめん」とま



た歌い直したりします。子どもの名前を入れて歌うと、K男君は、「モウイッカイウタッテ、コンドハKチャンツテ、ウタッテ」という注文もあります。楽しい歌声が続きます。

しばらく行くと、まだまだ線路には遠い所ですが、L男君が「デンシヤノオトガ、キコエルヨ」と言います。M男君もD男君も「キコエル、キコエル」と心がはずむようですが、A子ちゃんは「キコエナイ!」とはつきり言い返します。「キコエル」「キコエナイ」そんな口争いができるようになったかと思うと、保母はついうれしくなっています。



途中のお家の軒下に、みかんの木が植えてあって、春にはアゲハの幼虫やさなぎを見つけることができました。それを覚えていて、必ずのぞき込んで、「イナイネ」と確認します。また、プランターに植えられた稲の成長も楽しみました。保母が「これがお米よ」「これがご飯になるのよ」と話していたことを覚えていて、刈り取られた後を見つけると、「ゴハンナイネ」と話したりします。

突然、K男君が空を見上げて、「クモダヨ」と教えてくれました。「オッキイ(大きい)クモダネ」としばらく空を見上げます。「(あれは)ボクノ、クモダヨ」とK男君が言うので、「じゃあ、隣の雲は誰のかな?」と聞くと、「オッキイノハ、オバアチャンノクモダヨ」「チツチャイノハ、オカアサンノダヨ」などと話しながら、風に流れていく雲を眺めます。他にも「アッ、スズ

メ」「カラス、オッキイネ」など、様々な発見が散歩の楽しみです。

いつも通る道がきまっていますので、建築中の家が、少しずつ形付くのを見て、「オウチガ、オオキクナツタネ」「トントン、シテルネ」と、その変化に気がきます。同じ道を通っているから発見することが、いくつもあります。「ココデ、Lチャンガコロンダネ」とか「シロバイ、トオッタネ」等々、子ども達の記憶力には驚くことがあります。

そうこうしているうちに、ようやく目的地の電車の見える所まで着きました。あーよかった、レッドアローの時間に間に合って。みんなお気に入りの場所にチョココンとすわり、お行儀よく見えています。保母が立っていると「オーセンセイ、コニスワッテ」とD男君流の電車の見方を教えてもらいます。電車が通るたびに、L男君は「キッ



ロイ(黄色い)デンシャ」「アッオイ(青い)デンシャ」と知らせます。「オーイ」と思いっきり手を振るのはB男君とF子ちゃん。電車がブォーンと警笛を鳴らしたのでG男君はびっくりして保母に抱きついてきます。いよいよレッドアローが下りと上りでやって来ました。二台が続けて来るので、手を振るのも力が入ります。

楽しみはレッドアローの他にもあります。H子ちゃんは線路のわきのネコジャラシを採って来て、コチョコチョコとみんなをくすぐるのが大好きです。また、オシロイバナがたくさんはえていて、花を摘んだり、種を採ったりします。保母が

種から白粉を採ると、A子ちゃんはその気が気に入って、来ると必ず「トッテ」と種を持ってきます。そして念入りに白粉を自分の頬につけるのです。きつとお家でのお母さんのお化粧の様子を思い浮かべているのでしょう。

たくさん遊んだ後は、後ろ髪を引かれる思いで帰ります。そろそろお腹も空いてきて、甘えたくなる時間です。道にすわりこんで「歩かない」と全身で表す子や、一人が転ぶとそれを真似してわざと転んだりします。そんな時はしばらく見守ったり、抱っこしたりおんぶしたりしながら「あっ、あそこに面白いものがあるから行ってみ



よう」という具合に、犬や猫やすずめやヘリコプターに助けられて帰って来ます。

帰りも八百屋さんに寄って「タダイマー」とごあいさつ。「どこへ行ってきたの？」と聞かれると、「レッドアロー、ミテキタノ」と目を輝かせて答えます。「レッドアロー」の一言に様々なエピソードが込められているのです。「へえーずいぶん歩いてきたんだね」とほめられて、うれしそうに保育園に向います。

毎日見ていると、見逃してしまいそうな子ども達の成長ですが、日常の生活や遊びの中でたくさんのお見見し、様々な思いを感じています。これからますますお友達とのかかわりもふえ、言葉で身体全体で、驚きや喜びを表してくれると思います。こうした子ども達の思いをしっかり受けとめ、共感していきたいと思っています。

(豊島区立千早第二保育園)